

記入日 2015年1月10日

1. 概要

実践団体名	新潟市立小針小学校		
連絡先	025-265-3231		
プランタイトル	災害から助け合う「小針防災五人組制度」		
プランの対象者※1	2, 3, 9, 10	対象とする 災害種別※2	1, 2, 3

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】

災害時に近隣住民で助け合うことは大切なことである。しかし、地縁が薄い現在では、お隣同士声をかけることすら難しくなっている。小針小学校では、地域と連携した防災教育を推進し、児童が積極的に地域に働きかけたり、児童を見守る地域の目を増やしついでに、安全な街づくりに寄与したいと考えている。「小針防災五人組」は、近隣の子どもたちを核として結成し、自治会役員や民生委員、保護者の協力を得ながら集団登下校や避難訓練等を実施していく中で、それを見守る地域や保護者の関係を深めることで地域の防災力を向上させ、将来的には地域の一員として積極的に地域防災を担っていく人材を育成するためのプランである。

【プランの概要】

○「防災五人組」を以下のように結成する。

- ・学校の地域子ども会を活用し、家の近い子ども同士で五人組を作る。(5~10人程度)
- ・自治会長、民生委員、子ども会役員、保護者がサポートする。

・「防災五人組」を「集団登下校」「地域の安全確認」「児童会行事」「地域行事」等で活用

○地域と連携した防災教育を推進し、様々な避難訓練、防災訓練を実施する。

- ① 学校主体とした、地域と合同避難訓練を実施する。
- ② 学校、地域、行政等が連携した学校地域合同防災訓練を実施する。
- ③ 地域ごとの防災訓練に積極的に参加する。
- ④ 小針地区の安全を知るため、ハザードマップを活用した避難訓練を実施する。

【期待される効果・ここがおすすめ!】

○防災五人組による活動を行うことで、

- ・近隣の子ども同士が顔見知りになる、仲良くなる。
- ・自分が住む地域の危険箇所や安全な場所を把握する。
- ・登下校の安全がより確保される。
- ・見守る大人(地域・保護者)の関係が深まる



- ・地域の特徴を知る。
- ・地域住民の関係が深まる。
- ・地域防災に積極的にかかわる。

○地域と連携した防災教育

- ・学校と地域の防災意識が高まり、災害が起こったときにもお互いが助け合う基盤ができる。

2. プランの年間活動記録 (2014 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	2014 防災教育チャレンジプラン実践 計画作成		
5 月	学校地域合同避難 訓練の計画作成	第 1 回地域コミュニテ ィー防災部との打合せ	地域子ども会における防災五人組の 結成
6 月		第 2 回地域コミュニテ ィー防災部との打合せ	① 学校地域合同避難訓練(6月16日) 参加人数(学校 681 人・地域住民人)
7 月	学校地域合同防災 訓練の計画作成		
8 月		第 3 回地域コミュニテ ィー防災部との打合せ	第 5 回小針納涼大会における防災体 験の取組
9 月	学校地域合同防災 訓練の準備	第 4 回地域コミュニテ ィー防災部との打合せ	② 学校地域合同防災訓練(9月20日) 小針小学校の防災教育 No1 発行
10 月	中間報告会参加 計画の修正		③ 地域ごとの避難訓練・防災訓練に 参加(10~11月)
11 月		第 5 回地域コミュニテ ィー防災部との打合せ	不審者対応避難訓練 1 年生体験型防犯教室 (コミュニティー
12 月	ハザードマップを 活用した避難訓練 の計画		
1 月	実践のまとめ提出		④ハザードマップを活用した避難訓 練(1月9日)
2 月		最終報告会の準備	小針小学校の防災教育 No 2 発行
3 月	決算報告等		

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	学校地域合同避難訓練
実施月日（曜日）	6月16日（月）
実施場所	小針小学校体育館・屋上・多目的ホール
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：渡部 力 所属・役職等：仙台市立東六番丁小学校前校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	「2×45時間」
プログラムのカテゴリ、形式※4	3, 16
活動目的※5	3, 4, 6, 8
達成目標	地域住民と共に、防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	① 地震による津波を想定し、地域住民と共に学校の屋上、多目的ホールに避難 ② 防災講演会「東日本大震災から学んだこと」 ③ 保護者への引き渡し訓練
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・地域コミュニティー防災部のスタッフ
参加人数	児童681名と地域住民150名
経費の総額・内訳概要	4万（指導者への謝礼2万、交通費2万）
成果と課題	【成果】 ・避難所としての学校の役割を自覚 ・学校地域共に防災意識が高まる 【課題】 ・より多くの地域住民へ情宣すること
成果物	小針小学校の防災教育 N01 に記載

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】 ※3

タイトル	学校と地域合同の防災訓練
実施月日（曜日）	9月20日（土）
実施場所	小針小学校グラウンド・体育館・各地域の避難所
担当者または講師	担当者・講師等の区分：指導者 氏 名：消防署の職員等 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2×45分
プログラムの カテゴリ、形式※4	16
活動目的※5	3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
達成目標	地域住民と共に災害時の行動を理解しや防災技術を高める 地域の避難所を確認し、地域住民の助け合いの心を育む
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	① 朝、地震発生を想定し、地域の避難所に集合する ② 地域住民と共に人員を確認するとともに顔合わせを行う ③ 地域住民の見守りのもとで五人組で登校する ④ 地域住民とともに、防災訓練を実施する ⑤ 乾パン試食体験を行う
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・地域コミュニティ防災部のスタッフ ・自治会長 ・消防署の署員
参加人数	1100人（児童670人 指導者30人 地域住民300人）
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・地域の避難所を確認することができた ・地域住民と共に防災の知識を身に付け、技能を高めた ・同じ地域の子ども大人の関係が深まった 【課題】 ・19自治会のうち2つの自治会が訓練に参加しなかった。
成果物	小針小学校の防災教育 N02 に記載

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】 ※3

タイトル	地域ごとの避難訓練・防災訓練（小新自治会を参考に）
実施月日（曜日）	10月4日（土）
実施場所	小新4丁目公園 アピタ新潟西店屋上
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	（約2時間）
プログラムのカテゴリ、形式※4	16
活動目的※5	3, 4, 5, 8
達成目標	地域ごとの防災意識を高める。避難所、避難の仕方を確認。顔見知りの関係を築く。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	① 地震発生を想定し、小新4丁目公園に第一次避難 ② 人員を確認、要介護者の搬出 ③ 第二次避難所のアピタ屋上へ避難 ④ 振り返り
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	
参加人数	児童地域住民合わせて約120人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・地域の避難所を確認することができた。 ・要介護者の確認や、誘導方法を学んだ。 ・児童を中心とした、地域住民の関係が深まった。 【課題】 ・未実施の自治会がある。 ・五人組等の学校の取組が十分伝わっていない。
成果物	・小針小学校の防災教育N02に記載

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	ハザードマップを活用した避難訓練
実施月日（曜日）	1月9日（金）
実施場所	小針小学校体育館 各教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1×45分
プログラムの カテゴリ、形式※4	16
活動目的※5	4, 6, 8, 9
達成目標	各種ハザードマップにより小針小学校区の危険地域を知る
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	① ハザードマップによる地域の危険を知る（ミニ講演会） ② ハザードマップをもとに、防災五人組で地域の危険箇所、避難場所を確認する ③ 実際に集団下校を行う中で、それらの建物を確認する
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・新潟市西区総務課安心安全係 ・自治会防災部長
参加人数	全校児童682名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・ハザードマップについて知り、地域の危険箇所、安全な場所を確認することができた。 ・五人組の関係が深まった。 【課題】 ・今後、さらにマップの見方を養って行く必要がある。
成果物	・小針小学校の防災教育N02に記載

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○「防災五人組」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟大学松原教授から五人組のアイデアをいただいたが、実際の教育活動の中で、小針小学校の防災教育プランの中に取り入れていくことが難しかった。 ・初年度なので、無理なく可能な範囲で取り入れていくこととした。 <p>○地域と連携した避難訓練の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校地域合同防災訓練は、1000人を超える参加者が見込まれ、グループ編成や各体験コーナーをどのようにローテーションさせるかが難しかった。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○「防災五人組」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五人組結成についてのよさ、趣旨を職員へ周知することが難しかった。 ・実際に、児童同士家が分からなかったり、職員が地域を理解していなかったりしていたことで、五人組結成まで時間がかかった。 ・五人組は、状況に応じて変更可能とし、人数においても柔軟性をもたせることで、集まる毎により機能を高めることができた。 <p>○地域と連携した避難訓練の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての避難訓練が初の試みで、職員へ周知することが難しかった。 ・地域（自治会）に対しては、窓口をコミュニティー協議会防災部担当に一任したことで、学校の負担は軽減できた。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○「防災五人組」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団による登下校や地域の安全確認の他に、五人組の活動を広げていくことが難しかった。 <p>○地域と連携した避難訓練の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が協力の下に成り立つ本実践に協力してもらえない自治会があった。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	○新潟大学（産学連携室）	・実施内容のアドバイス
保護者・ PTAの組織		
地域組織	○小針小学校区コミュニティー協議会防 災部 ○各自治会	学校地域合同避難訓練 （6月16日） 学校地域合同防災訓練 （9月20日） 他、避難訓練、安全教室
国・地方公共団体・ 公共施設	○新潟西消防署 ○新潟西警察署 ○新潟市西区総務課安心完全係 ○新潟市西区社会福祉協議会	学校地域合同避難訓練 （6月16日） 学校地域合同防災訓練 （9月20日） 他、避難訓練、安全教室
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>【防災意識の高まりが見られた】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した防災教育を行うことを目的にし、常に自治会の役員と打合せを行ったり、多くの地域住民が小針小学校へ足を運んだりしながら避難訓練や防災訓練に参加した。その結果、学校と地域住民の距離が縮まり、お互いの防災意識が高まった。 <p>【地域の安全を学びながら、お互いの親睦が広がった】</p> <ul style="list-style-type: none"> 五人組を活用し、集団登下校を始め、地域の危険箇所や避難場所を確認する活動を行った。その結果、自分の住んでいる地域の安全について学び、また、それを見守る地域住民や保護者の関係が一層深まった。 <p>【防災教育を楽しみながら学ぶことができた】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小針納涼大会や児童会行事を活用して楽しみながら防災教育を行う中で、防災への興味関心が高まり、近隣の児童がお互いを知る機会ともなった
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>【大規模校の防災教育のあり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校が700規模の大規模校でもあり、全校児童を動かすことや職員全員が共通理解することが難しかった。大規模校の防災教育の難しさを感じた。 <p>【全ての地域に広げるには】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会にも温度差があり、学校や地域コミュニティー協議会からの投げかけに応じない自治会も見られた。今後は、さらに地域へ発信する活動を充実させていきたい。
<p>今後の 継続予定</p>	<p>【防災五人組を継続させ、活動の幅を広げていく】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災五人組の活動の場を広げるために、遠足や児童会行事などの学校の教育活動の中で積極的に取り入れる 地域と連携し、五人組による地域の調査活動をもとにしながら、地域防災マップづくりを行っていく。 <p>【楽しみながら学ぶ防災教育を推進する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も、小針納涼大会を始め、地域や行政と連携を図りながら、楽しみながら学べる防災教育を推進していく。



合同防災訓練の様子



防災五人組による地域確認



小針納涼大会の様子

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

防災教育チャレンジプランに応募して何が変わったか

【地域との連携した防災教育の推進】～ 防災のカギは地域との連携にある ～

今回、このプランに推進するにあたり、地域と連携した防災教育を常に意識してきた。

子どもの生活の2/3は地域にあり、地震等の災害も、子どもたちが家や地域にいる間に発生する確率が高いからである。そこで、それぞれの地域の状況や実態に合わせて、自分の命を守るための行動を主体的にとることのできる子どもを育てたい。そして、将来的には地域防災に主体的にかかわる子どもを育てていきたいと考えたからである。

また、子どもの安全を確保していくためには、大人の目が欠かせない。より多くの地域の方々とはふれ合い、顔見知りの関係を築いていくことが防災教育では大切である。また、地域を巻き込み、学校を核にした防災教育を推進することで地域全体を動かし、防災意識を高めると共に防災に強い街づくりを行うことも学校の役目としたいと考えている。

そこで、これまで行われてきた避難訓練を全て見直し、必ず地域の自治会を取りまとめる地域コミュニティ協議会の防災部と連携した取組を行うようにした。防災部長の渡辺さんはとても生真面目な方で、計画もとてもきめ細かく立てながら行動できる方である。渡辺さんとの打合せや防災部との会議は何度とも無く繰り返され、これまで実施してこなかった学校と地域合同避難訓練（6月実施）や学校地域合同防災訓練（9月実施）までにこぎ着けた。

しかし、いずれも初めての試みの中でのチャレンジであったが、学校は学校で、地域は地域でそれぞれ問題を抱えていた。

学校側では、今年度の取組について「教育ビジョン」や「防災教育全体推進計画」等をもとに職員にその都度計画を説明した訳であるが、計画を立てる側も初めての試みの為にイメージがつかめず、理想と現実の違いや意義やプランを伝えていくことの難しさを実感した。

【防災意識の高まり】～ 体験した人の言葉は重い ～

6月の合同避難訓練では、東日本大震災を経験した、当時仙台市の東六番丁小学校の校長先生から講演をしていただいた。東六番丁小学校は仙台駅に近い場所にあり、東日本大震災当時、1800人の避難者（帰宅困難者を含む）が一気に学校に押し寄せてきた。そんな中でも、校長の強いリーダーシップと地域の町内会長との絶妙な連携で、理想的な避難所運営を行った。「おもてなしの心」で、少ない食料を教職員がより多くの人々に配った「小さな握り飯」は毎日新聞の連載記事（計10回）となった。当日は、学校と地域が連携し未知の事態に対応した秘話を聞かせることができ、地域の方も防災意識を高めることができた。また、避難所としての学校の存在を意識付け、学校と地域が一つになった防災教育の必要性を感じることもできた。



(自由記述: 1/3)

**【学校と地域が一つに】 ～ 1100人を超える防災訓練が成功裏に終わる ～**

9月の学校地域合同防災訓練においても、実際きめ細かい計画を立ててはきたものの、実際に地域を担当する渡辺さんは寝られない日々が続いたという。事前に自治会からあがってきた参加者は合計すると300名を超え、指導者を入れると1000人を超える避難訓練になることが確実であったからである。当日はさらに保護者も入り参加者が増えることも考えられる。この人数で、30分ずつ各体験コーナーをうまく廻ることができるのであろうか。

いざ、当日の朝を迎え、グラウンドには1100人を超える参加者が見られ、勇壮な開会式となった。渡辺さんの緻密な計画や準備が功を奏し、指導者やスタッフもたくさん参加したことから余裕ある運営ができ、参加者も訓練を十分体験することができた。こうして第1回の学校と地域が一つになった防災訓練も成功裏で終わることができた。この取組はニュースや新聞で取り上げられ、県内に広く報じられた。西区役所からも小針地区の取組に対して高い評価をいただいた。

【小針小発「小針防災五人組制度」の誕生】 ～ 今後も継続が必要 ～

今回のチャレンジプランの「売り」である「小針防災五人組」は、新潟大学産学地域連携推進センターの松原幸夫教授のアイデアによる。江戸時代の五人組制度は、税を徴収するための連帯責任制度であるが、お互いの助け合い制度でもある。現代でも新潟の佐渡島では、この制度が冠婚葬祭などに於ける助け合い制度として残っている地域がある。

防災の基本は近所の助け合いである。近所の家族構成やお年寄りや体の不自由な人がいる情報は、日常のかかわりがないと分からない。今年度広島で起こった土砂災害でも、近所の人がお互い助け合って救助した例も多い。

しかし、近所づきあいが疎遠になった昨今、近隣住民同士の情報が分からなかったり、仲良くなかったりすることも多いと聞く。小針地区も新興住宅街が多いことから、地域同士のつながりが殆ど見られないという地域もある。これではいざという時にお互い助け合って行動できるかが疑問である。

「小針防災五人組」は、子どもを核として地域再生を図るプランである。子どもの活動を保護者や地域住民が支えることによって子ども同士はもちろん、大人同士がまず顔見知りの関係となり、関係を深めていくことを期待する。やがて、子どもたちが大人になっても、地域の状況は大きくは変わらないので、近所の関係は続き、いざというときの防災にも役立つことがあるだろう。このように、学校、児童初の地域防災の仕組みが「小針防災五人組」である。

もちろん、地域の安全を一緒に確認したり、集団による登下校で安全が一層確保されることは言うまでもない。この考えを学校、保護者、地域へ浸透させていくこと、何年も継続させていくことが大切である。小針小学校の独自のプランとして地道に進めていかなければならない。今年はその第一歩であるが、今年度の成果を次年度にもつなげていきたい。



五人組で地域の危険箇所を確認

(自由記述: 2/3)

【楽しみながら学ぶ防災教育に向けて】

毎年夏に開催される「小針納涼大会」(夏祭り)は、今年で5年目を迎え、地域と学校が一つになって取り組んでいる地域全体のイベントである。実行委員会が地域から協賛金を集めたり、補助金を得たりしながら独自で運営し、毎年2000人以上の地域住民が参加している。

小針小学校のグラウンドでは、櫓が建てられ、盆踊りや歌やダンスの発表会、仮装コンテストが行われる。小針小学校の父親の会「つつあつクラブ」の出店があり、多くの食べ物が提供される。体育館ではゲームコーナーや西区社会福祉協議会による健康福祉コーナーも祭りを盛りあげる。

グラウンドで行われている西区社会福祉協議会による防災ブースでは水消火器の体験ができる。このような取組も小針小学校の防災教育に一翼を担っているのであるが、もっと広く言えば、この祭り自体が小針小学校の防災教育そのものではないだろうか。

祭りに準備させる数限りない大鍋や鉄板などの備品は常に小学校の空き教室に準備され、グラウンドや出店を照らすライトや投光器も毎年補充されている。祭りのためにテントも毎年補充されている。スタッフの中には、電気屋さんや大工さんもいる。家庭科室やグラウンドの調理場で調理器具を使いこなしている父親たち、農家の方々を始め、多くの食材が無償で提供される。その中で、地域住民、保護者を始めとする多くの人々が関わり合いを常に深めている。この祭りで準備される物品の数々やこの祭り得られた経験自体が、いざというときに役立つことは言うまでもない。小針納涼大会が楽しみながら学ぶ防災教育そのものなのである。

【防災教育の見方が変わった】

今年度、地域と一緒に取り組んだ防災教育を実施し、防災五人組を通して地域における安全教育に取り組んできた。この取組を通して、大きく変わったことは次の通りである。

- 1、防災訓練等を通して、地域と連携して取り組む具体的な姿が見えてきた。
- 2、学校と地域の防災意識が高まった。
- 3、児童が、自分が住んでいる地域に潜む危険について理解できるようになった。
- 4、教師自身が地域を知るきっかけになった。等

防災教育は、今年がスタートの年であり、今後も継続させていくことが何よりも肝心である。これらの取組の継続により、小針小学校が狙っている「どのような状況でも自分の命を守る子ども」が育ち、「災害に強い小針地区」を築くことができるものと信じている。



1年生防犯教室(地域住民も参加)